

施工段階		屋上工事		5	設備工事： 屋上設備機器設置	シート番号 5-1
電気	空調	衛生	その他			
○	○	○	—			

ポイント

■屋上に設置する代表的な設備機器

- ・キュービクル、水槽類、空調室外機等があります。内部に水が侵入しないよう防雨・防湿対応を行います。
- ・塩分を含んだ風を受ける沿岸部(2km以内程度)であれば塩害対策を検討しましょう。沿岸に300m以内に近接している場合、重塩害対策として塗装をさらに厚くし、除塩フィルターを設けるといった追加対策も考慮しましょう。



■設置場所・メンテナンススペース

- ・設備機器は概ね重量物なので、極力梁上部に配置するよう計画します。出来ない場合は構造設計者と協議の上、重量次第では機器設置面のスラブ補強を行います。
- ・設置する設備機器によってメンテナンススペースの保有距離が定められていますので、必ず確保するよう配置します。

先輩アドバイス

- ・設置する設備機器の重量や寸法を確認し、搬入方法や搬入ルート（竣工後の改修工事も見据える）をメーカーや保守関係者と調整しておく、竣工後の保守業務も円滑に進めます。
- ・建築、設備の仕様の整合性を確認しましょう。

チェック項目

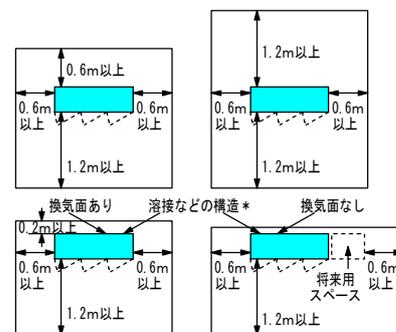
- 設備機器のメンテナンススペースは確保していますか。
- 設備機器の設置について、諸官庁との調整は図れていますか。
- 建設地が沿岸部の場合、塩害対策を施していますか。
- 支持部材の仕様は適切ですか。

失敗すると...

- ・設備機器の保有距離が確保されていないことで、機器の更新・交換が困難になり、建築主の保守費用のコストアップにつながります。また、竣工時では諸官庁検査で指摘を受け、是正しないと検査済書を受領できず、引渡しできないといったトラブルになりかねません。
- ・機器外装だけにとどまらず、内部基盤や端子部分も錆びて故障します。部品交換又は機器自体の交換になります。

キュービクルの保守・点検上の離隔距離

キュービクル回りの寸法は、操作面（前面）1.2m以上、点検面0.6m以上、換気口を有する面0.2m以上とする。



■はキュービクルの位置を示す。

* 溶接またはねじ止めなどにより壁面に固定されている場合をいう。

共通管理項目	合理化 省力化	施工性 向上	品質・性能 向上	工期 短縮・圧縮	コスト削減 (材料)	コスト削減 (労務)	設備 先行工事	工事区分 見直し	責任所在 明確化
	-	-	○	-	-	-	-	-	-
備考	参考文献：						制定	2019年3月1日	
	参考メーカー：						改訂		